

82 国勢調査からみる昼夜間人口比率 平成30年6月21日掲載

「昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）」と聞くと、私は東京都の比率が高いということが頭に浮かびますが、皆さんは山口県の昼夜間人口比率をご存じですか？

総務省統計局が5年ごとに実施している国勢調査の「従業地・通学地による人口・就業状態等集計（平成27年）」によると、山口県の昼夜間人口比率は99.6で全国34位です。

昼夜間人口比率は、その地域に住んでいる「夜間人口」と、夜間人口に通勤・通学で他の地域に移動する流入・流出人口を足し引きした「昼間人口」との割合で、山口県のように100を下回ると、日中地域外に出る人の方が多い、ということになります。

都道府県別の状況をグラフにしてみました。東京都はじめ大都市圏を抱える都府県の比率が高く、その周辺の県の比率が低いことが分かります。

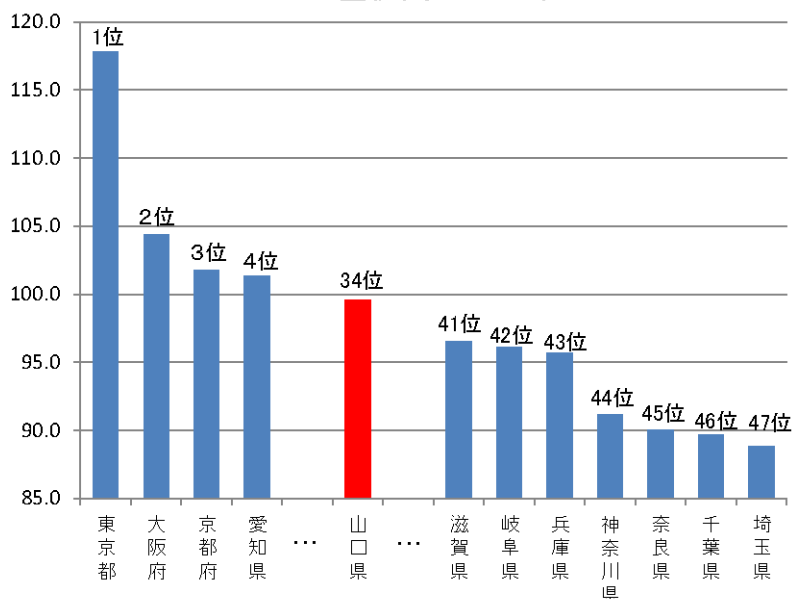
ここで、流出人口の方が多い山口県と隣県の人口移動の状況を見ると、広島県は2,718人、福岡県は2,822人の流出超過となっています。両県からの流入もあるものの、この2県で山口県の流出超過の大部分を占めており、特に県境の下関市、岩国市からの流出が多くなっています。

県内市町の様子はどうでしょうか。昼夜間人口比率が最も高いのは、柳井市の103.24で、平生町や田布施町からの流入超過が目立ちます。一方、最も低いのは田布施町の88.7%で、柳井市、周南市への流出超過が多くなっています。

ちなみに、県内市町でこの比率が100を超えているのは、柳井市のほか、どこがあると思いますか。正解は周南市、美祢市、山口市、周防大島町、下松市、宇部市です。あなたの想像と合っていましたか。

このように、国勢調査では人口についてさまざまな切り口から調査し、集計しています。皆さんが回答された調査結果は、統計局のホームページに掲載されていますので、ぜひのぞいてみてください。

昼夜間人口比率



出典：総務省「平成27年国勢調査」